



いきいき活動調査報告書

目的・概要

結果

分析

◎ 本調査は、職員が65歳以上の高齢者宅を訪問し、生の声を集め、生活習慣や活動状況の把握、ニーズや課題を掘り起こし、熱海市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が一体に提供される熱海版地域包括ケアシステムを構築するための基礎資料とすることを目的として実施した。

◎ 市内全域を7地区に分け、性別、年齢、世帯区分及び交通地域が均等となるように調査対象を抽出した。

- ・ 居住地域 7地区
- ・ 性別 男性、女性
- ・ 年齢 65～74歳、75歳以上
- ・ 世帯 ひとり暮らし、一般世帯
- ・ 交通 便利地域、その他地域

訪問によるヒアリング形式

調査員36名（2人1組）18チーム

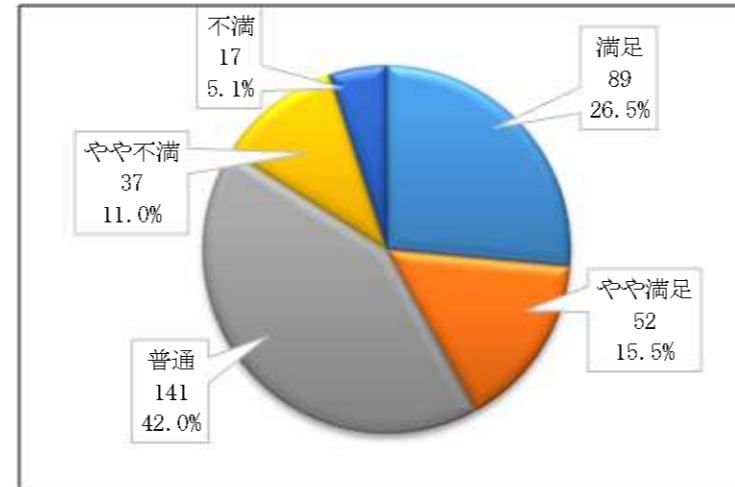
調査期間 7/3～8/31 述べ訪問日数69日

調査件数	回答件数	回答率
432件	342件	79.2%

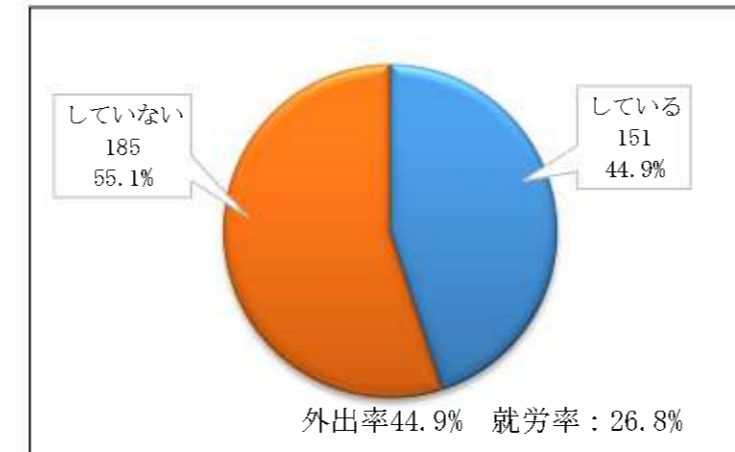
◎調査の主な内容

- ・ ご本人、世帯について
- ・ 生活全般について
- ・ 日常の活動や関心ごとについて 等

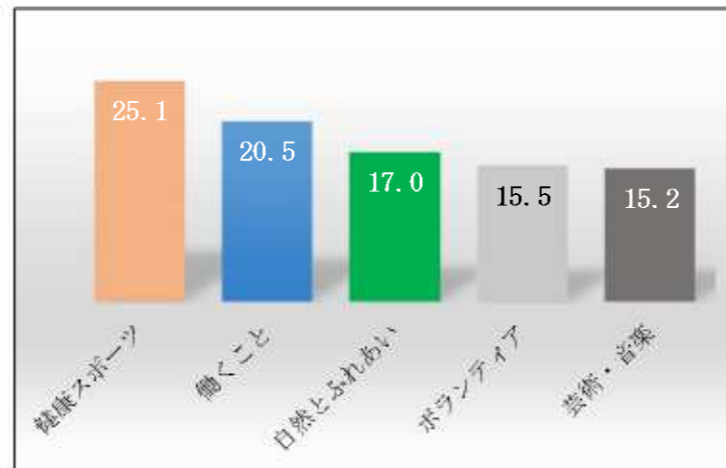
●「生活満足度は」



●「就労や趣味などで週3日以上外出しているか」



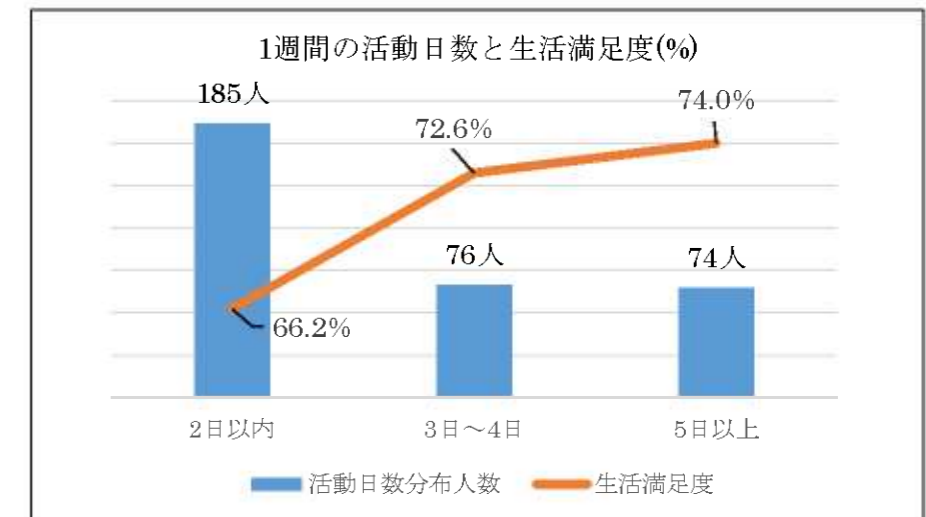
●「どのような活動に関心がありますか」 (%)



◎活動的な高齢者は、生活満足度が高く、困り事や手助けを必要とすることが少ない。

活動日数（外出頻度）と生活満足度との関連を分析した結果、下記の図のとおり。

1週間の活動日数の多い方のほうが、生活満足度が高い結果となった。



◎活動頻度の向上による交流促進が、超高齢社会に対し重要である。

適度な就労や趣味、ボランティアなどによる他者との交流が、生活充実度の向上に影響あり。また、現役世代から「地域活動・ボランティア」や「趣味やサークル活動」への関心や参加することが高齢期の満足度へ繋がっていくと考えられる。

◎ひとり暮らしは、一般世帯と比べ、生活満足度が低く、困り事や手助けが必要な事が増えている。

加齢により、ひとりでは困難な事が増えてくる。不便なことが増え、生活充実度が低下していると考えられる。また、将来に対する不安を訴える方も多い。

◎地区の魅力や課題について、それぞれの地域ごとの特色が顕著となった。